

教員の資質向上に向けた取組状況

平成27年3月24日

教育懇談会資料

1 教育に関する最近の国の動き

(1) 教育再生実行会議

平成26年9月、教育再生実行会議に3つの分科会を設置し、分野別に集中的な議論を実施中。

第1分科会:「これからの時代に求められる能力を飛躍的に高めるための教育の革新」

～イノベーション創出、グローバル化を担う人材育成など

第2分科会:「生涯現役・全員参加型社会の実現や地方創生のための教育の在り方」

～社会人の学び直しの充実、地方創生のエンジンとなる教育の在り方など ⇒ 平成27年3月4日第6次提言

第3分科会:「教育立国実現のための教育財源など教育行財政の在り方」

～これからの教育投資、教育財源の確保など

(2) 文部科学省・中央教育審議会

○ 学習指導要領全体の改訂（初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について）

平成26年11月諮問。教育課程企画特別部会を設置し、「何を教えるか」に加え「どのように教えるか」を重視した教育のあり方などについて審議中。平成28年度中に答申予定。

⇒ 育成すべき資質・能力の観点からの目標・内容の見直しや、課題の発見・解決に向けて主体的・協動的に学ぶ学習（いわゆるアクティブ・ラーニング）の飛躍的充実、学習評価の改善

⇒ グローバル社会で求められる力の育成（小学校からの英語教育の在り方等）

○ 高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革

平成26年12月答申。平成27年1月、文部科学大臣が「高大接続改革実行プラン」を決定し体系的かつ集中的な施策展開を推進。

⇒ 高等学校・大学教育の改革（高校・大学におけるアクティブ・ラーニングの充実など）

※ 高等学校専攻科修了生の大学への編入については平成27年度中に制度改正

⇒ 「高等学校基礎学力テスト(仮称)」「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入

○ 教師力向上のための養成・採用・研修の改革

「教員養成部会」で審議中。平成27年夏頃にまとめ。

⇒ 多様化への対応、体系的な取組、次世代の教育像を意識した取組

○ チームとしての学校・教職員の在り方

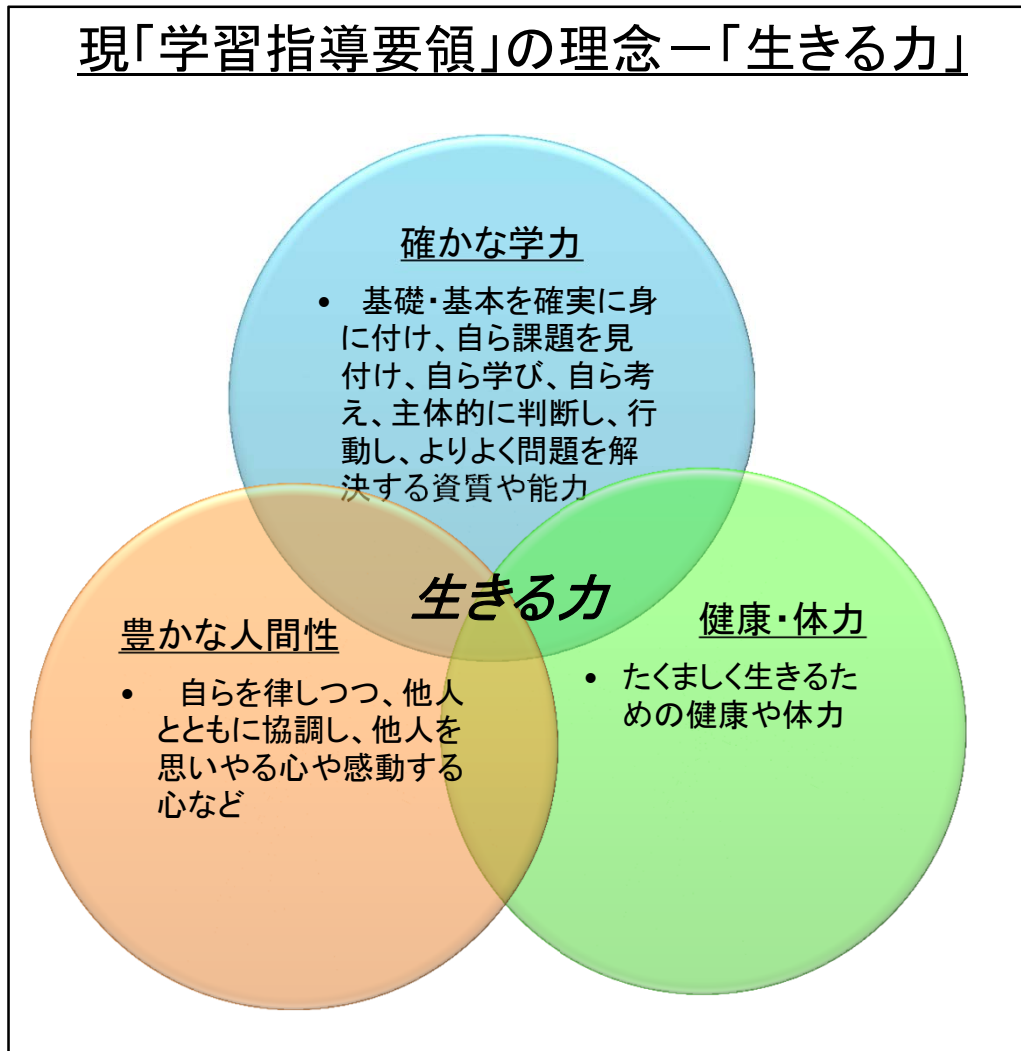
平成26年7月諮問。「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会」を設置し審議中。平成27年11月頃答申予定。

⇒ 学校が組織全体の総合力を高めるための学校運営の在り方、役割分担・連携、評価・処遇、管理職の在り方、地域連携のあり方

2 教育を取り巻く状況

(1) 子どもたちに「育成すべき資質・能力」

現「学習指導要領」の理念－「生きる力」



時代の変化の中、育成すべき資質・能力も変化

○ 自立した人格を持つ人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力を育成するため、例えば以下のような資質・能力を重視することが必要

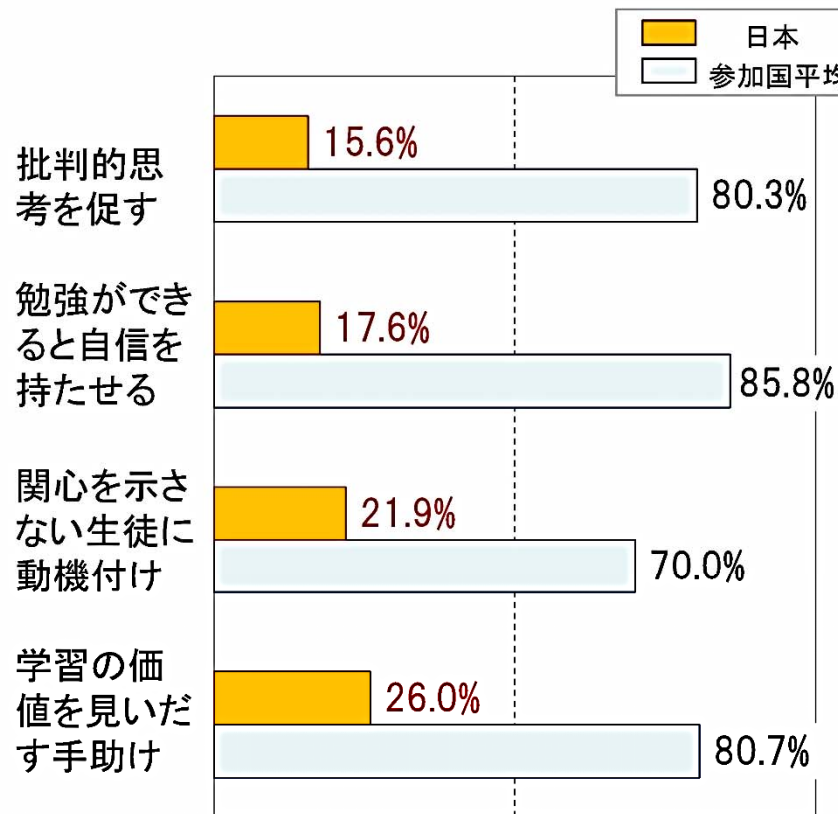
- ・ 主体性・自律性に関わる力
- ・ 対人関係能力
- ・ 課題解決力
- ・ 学びに向かう力
- ・ 情報活用能力
- ・ グローバル化に対応する力
- ・ 持続可能な社会づくりに関わる実践力

(平成26年3月 文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会議」論点整理より)

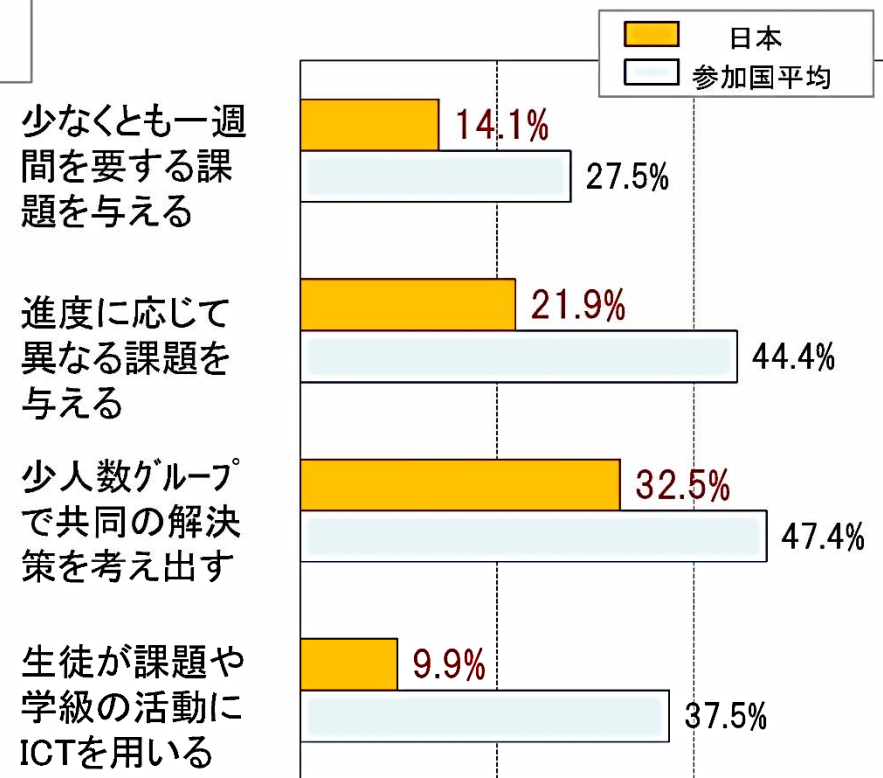
主体的な学びに関する問題 —OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) から—

◆教員は主体的な学びを重要と考えている一方、主体的な学びを引き出すことに対しての自信が低く、ICTの活用を含め多様な指導実践の実施割合は低い。

主体的な学びの引き出しに自信を持つ
教員の割合



各指導実践を頻繁に行っている
教員の割合

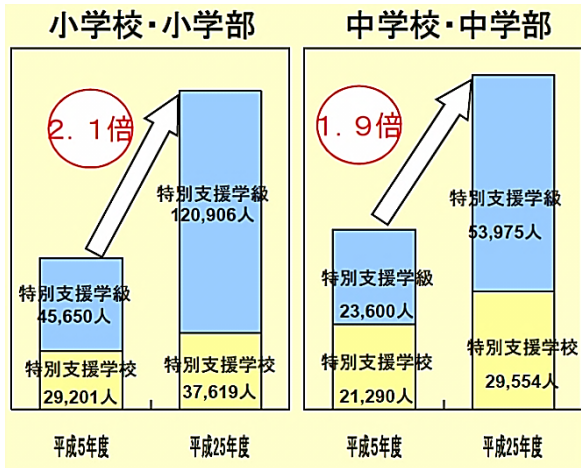


(出典) OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) 2013 結果概要

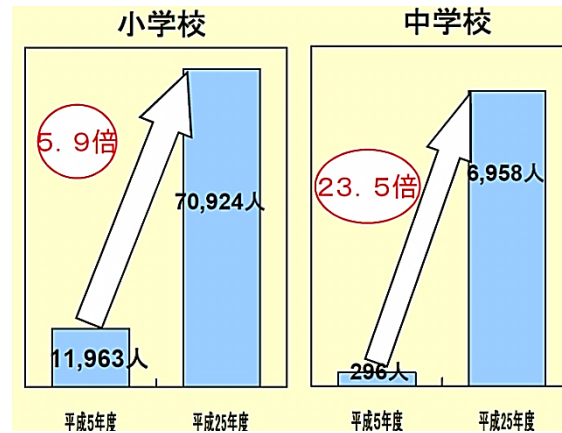
(2) 教育課題は多様化・複雑化

○ 特別な支援や指導が必要な子どもたちが増加。保護者のニーズも多様化・複雑化。

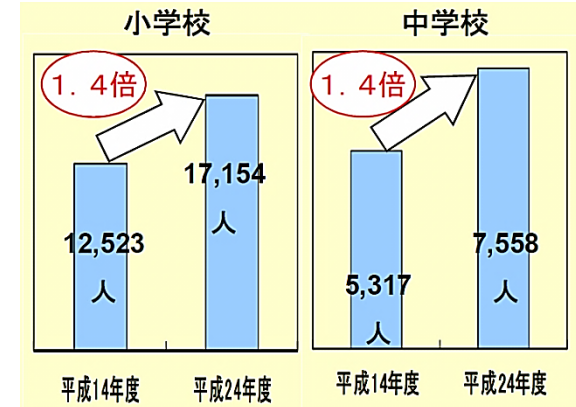
特別支援学校・特別支援学級に
在籍する児童生徒が増



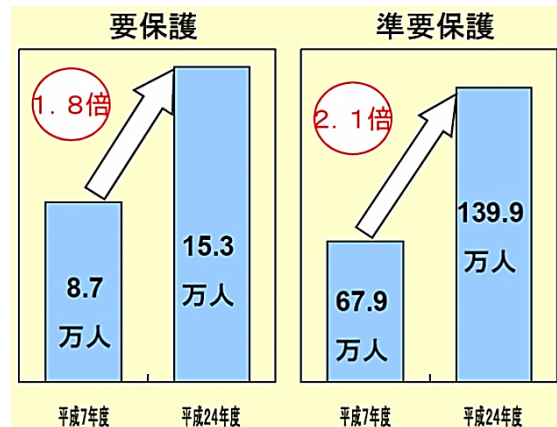
通級指導を受けている児童生徒が増



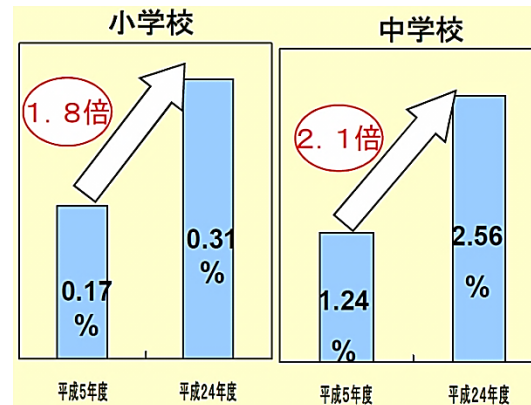
日本語指導が必要な児童生徒が増



学用品等の援助を受けている
児童生徒が増



不登校の児童生徒が増



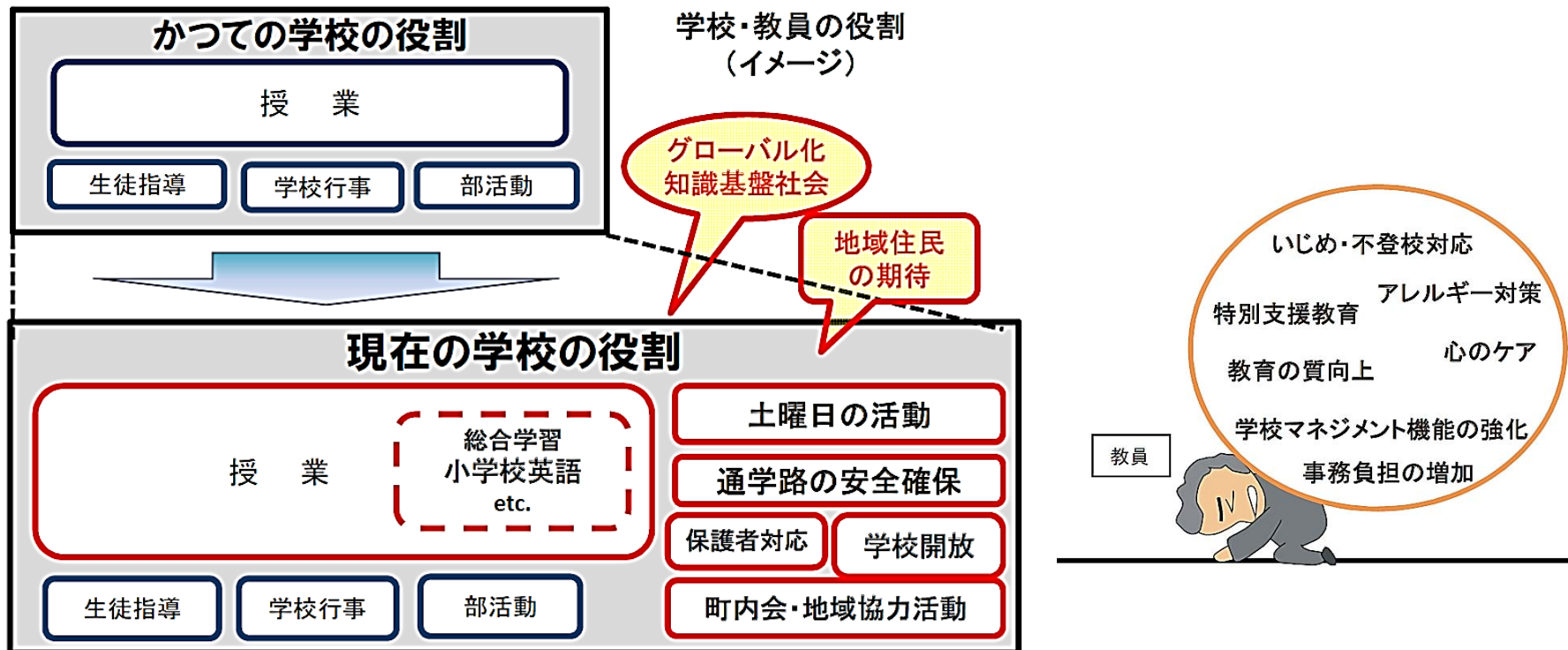
この他
いじめ問題
アレルギー対策
.....

資料：中央教育審議会資料より

(3) 教員・学校を取り巻く状況も厳しくなっている。

○学校や教員の仕事も拡大、多様化

課題：我が国の学校は、教員以外の専門スタッフが少なく、教員が非常に幅広い業務を実施
授業等の教育活動に集中しづらい
教員の1週間当たりの勤務時間は日本が最長
団塊世代の教員の大量退職を受け、急激に教員の若返りが進んでいる



※欧米では、教員の仕事は授業が中心。生徒指導・進路指導の比重が少ない。

資料：中央教育審議会資料より